

## 世代別タウンミーティング（松山大学）（要約）

平成27年2月18日（水曜日）

【市長】 皆さんこんにちは。松山市長の野志克仁です。今日は皆さんタウンミーティングにご参加をいただきましてありがとうございます。後期の試験も終わり春休みに入って、アルバイトをされている方も多いのではないかと思います。学生さんもいろいろと忙しいと思いますが、松山市版のタウンミーティングにご参加をいただきまして本当にありがとうございます。まず、タウンミーティングのことからご紹介をさせていただいたと思います。私が市長に就任をさせていただいて今2期目に入らせていただいているところなのですが、就任した時からこのタウンミーティングを始めています。1期目は地区別でやらせてもらいました。例えば松山には市外や県外から来られている大学生の方もいるでしょう。松山市は清水地区とか味酒地区とか番町地区とか41地区に分かれます。どちらが楽かという我々が市役所で皆さんが来られるのを待っているほうが楽です。でも、果たしてそれでいいのでしょうか。我々から各地区に出向いて行って、魅力は伸ばす、課題は減らすタウンミーティングをさせていただこう。もう真剣勝負です。90分間やらせていただいて、小さい地区になると50人くらいの参加で大きい地区だと130人くらいの台本なしのタウンミーティングを41地区でやらせていただきました。おかげさまで、できることからすぐさま市政に反映します。そして1期目のタウンミーティングは皆さんからご意見をいただいたら、できるだけその場でお答えをして帰る。中には国と絡む案件や愛媛県と関係する案件、財政的な問題があるご質問もありますので、いい加減な返事をして帰るわけにはいかないです。そういうものはいったん持ち帰らせていただいて国や県に問い合わせる、市で考える。国や県から返事が返ってくる1カ月を目処に必ず返事をする、聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないタウンミーティングをさせていただきました。本当は市長の任期は4年の48カ月で、41地区を1カ月に1地区ずつ回っていこうと思っていたんです。1期の任期中に一巡りできればいいなと思っていたんですけど、思いっきり前倒しをさせていただいて、1期目の4年の任期中に二巡りさせていただきました。ご存知の方も多いかもかもしれませんが、私は本当に一市民からこの立場をいただいた人間です。市民目線を大切にする、現地現場を大切にするということでこのタウンミーティングは2期目も続ける。やりっぱなしにしないタウンミーティングで市役所から出向いてのタウンミーティングですから、職員はちょっとしんどい思いをしますけども2期目もやらせてもらいます。地

区別だけじゃなくて職業別のタウンミーティングもする。例えば農業の方々にも集まっていたりとか、観光に携わっている方々に集まっていたりとか、商店街の方々に集まっていたり職業別のタウンミーティングをする。また、世代別のタウンミーティングをする。皆さんのような学生さんに集まっていたり「松山市どうしたらいいかな」とアイデアをいただいたり、子育て世代の方々に集まっていたり「子育て世代としては、こういう施策をしてもらいたいんだけど」というような意見交換をする子育てのタウンミーティング。あえて、おじいちゃんやおばあちゃんたちに集まってもらうタウンミーティングもいいですね。言うなればシルバータウンミーティングといいましょうか。そういうような皆さんのお声を聞かせていただくタウンミーティングをこれからも重ねていこうということで、2期目最初の世代別のタウンミーティングの初回が今日です。2期目の最初のタウンミーティングということでメディアの方々も多く来られているんですが、90分間です。緊張して肩ひじ張っているとさすがに疲れてしまいます。アイデア大事です。意見交換大事です。今日は皆さんと有意義な意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【司会】 それでは本日のタウンミーティングに入らせていただきます。学生の皆さんには若者ならではの視点で松山に対する思いやまちづくりなどについて自由な意見を市長にどンドンぶつけて活発な意見交換を行っていただきたいと思います。それでは意見交換を始める前に、本日のテーマ「学生の視点で松山市を考える」について市長からご説明をいたします。

【市長】 こちらのパワーポイントを見ていただけたらと思います。今日は学生の視点で松山市を考える。まず1つ目「学生に選ばれる魅力あるまちとは？」2つ目「学生が松山に定着するには？」3つ目「私たち(学生)ができること、そして市と連携してできること」という3つのテーマにさせていただきました。2期目の私のキャッチフレーズが「一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市 まつやま ～徹底した市民目線による行政第二幕～」となっています。幸せ実感都市と書いているように幸せを求めていきたいと思いますというのが私の思いでして、そのためにはやっぱり人間は体が元気じゃないと、心が元気じゃないと幸せなんて感じられません。だから「健幸」健やかで幸せと書いています。2つ目、やはりまちに賑わいがなくなかなか幸せを感じられないですね。「賑幸」賑わいで幸せと書いています。3つ目、「幸共」幸せを共に、この8つの柱を公約に掲げ

ているんですが、最後を見てください。新たなタウンミーティングとして世代別や職業別の対話形式による政策形成を行います。皆さんの声をもとに政策形成を行っていきますよということです。テーマの内容に入っていきますが、松山の宝を生かしたいと思っております。皆さんも松山の宝なんです。なぜかという、松山には4年制の大学が4つと短期大学が3つあるんですね。松山市を含めて愛媛県には20の市と町があるんですけれども、ほかの市長さん町長さんにうらやましがられるんですね。「松山市さんは大学や短期大学があつていいですね。うちの町にはないですから、うちの市にはないですから」と言われるんですけれども、愛媛県の中で4つ大学があるんだけれども、松山市にはその全部が集まっている。そして短期大学が5つのうち3つある。実は人口にすると松山は四国で唯一の50万以上の都市で52万弱の人口ですが、その内2万人が学生さんです。専門学校がおよそ20あります。やっぱりこれは宝だと。皆さん聞かれたことがあるかもしれませんが、まちづくりに大事な視点は3つ。若者・ばか者・よそ者と言われます。若者の感性、よそ者は市外から来られた人や県外から来られた人の視点、ばか者は本当に馬鹿という意味じゃなくて突飛な発想・突飛なアイデア、若者・よそ者・ばか者と言いますけれども若者の視点は大事です。ですからこれまでも学生さんによる政策論文や市長と語る若者会議を行ってきました。ちょっと今日覚えておいてください。第6次総合計画というのがあるんですけれども、色んな計画を役所は立てるんです。例えば交通の計画とか環境の計画とかで、1番大きな計画が総合計画で10年に1回ずつ作っているんです。その第6次総合計画を立てるときにも学生さん・若者の方に参加してもらって意見交換をしました。今回なぜ松山大学さんに来させていただいたかという、選挙コンシェルジュとかボランティアグループの4-Ringsなど、いろいろさせていただいているので今回来させていただきました。ほかの大学や専門学校さんでもこういうタウンミーティングはさせていただきたいなと思っています。先ほどのテーマ1「学生に選ばれる魅力あるまちとは？」では、宝を磨いていきましょうと「たからみがき」のまちづくりとって魅力を伸ばすまちづくりをやってきたんですけども、若い皆さんにとって魅力あるまちとはどういうものなのか率直にご意見を伺いたいと思っています。そして「学生が松山に定着するには？」では、学生さんが松山で学んで就職で出られる方も多いと思いますが、人口減少社会ですから、できたら若い皆さんに定着していただきたいと思っています。松山の魅力は学生さんを定着させることができるものなのかどうか。就職口がないと松山に残ってもらえませんが、皆さんがどのような業種や企業を望んでいるのかについてもご

意見をいただければと思います。3つ目「学生ができること、市と連携してできること」では、松山市が目指しています市民主体のまちづくりですが、皆さんのようにまさに若い力が必要ですので、どのようなことができるか一緒に考えていければと思いますのでよろしくお願いします。

【男性】 本日はお忙しい中ありがとうございました。1番最初の「学生に選ばれる魅力あるまちとは？」ということで配られた資料を見ていますと、主にインフラ面に重点を置かれているように思いますが、例えば大学生でしたら奨学金制度はどのようにお考えでしょうか。

【生涯学習政策課長】 教育委員会の津田と申します。ご質問ありがとうございます。最近、新聞等で地域創生の観点から国における奨学金の減免・免除という話題も出ておりますけれども、現時点で松山市では貸与という形のみ奨学金制度を設けております。松山に戻られて就職をされてもご返済いただきます。ただ、無利子ですので、皆様はもうご卒業が近い方もいらっしゃると思いますけれども、弟さん等いらっしゃいましたらご紹介いただければと思います。

【市長】 国とか県とか市とかそれぞれで奨学金制度があると思うんですけども、私も報道とかで見ただけであまり詳しくはないんですが、やっぱり利子を返さないといけないので就職してからなかなか大変なんだよみたいなニュースを報道で見たりすることがありますけども、今は無利子で有利な奨学金制度かなと思います。今日もいろいろお話が出てくると思うんですけども、ハードも大事だしソフトも大事なんですよ。ハードといたらとにかくお金がかかります。皆さんも学生さんですから勉強されているんじゃないかなと思います。国は今借金いくら抱えていますかといったら1千兆円抱えています。中学や高校のときに勉強で出てくるんじゃないかなと思います。地方交付税交付金とか国庫支出金というかたちで国から地方にお金が回ってくるんですね。仕送りと同じところがありまして、親元が苦しくなっていたら仕送りが増えるとはとても考えにくいですよ。だから、これから地方は松山市だけでなくこの地方自治体も厳しい財政運営を強いられるわけです。少子高齢化についてできるだけわかりやすく話します。私も47歳で子どもが高校3年生と中学3年生ですから、皆さん私の子どもに近い年齢になってきました。高齢化してくると私もいずれ高齢化しますけれども、体が調子悪くなったりしてお世話になることが多くなるんですね。そういう人がこれから増えていく。一方で子どもの数、働いて税金を納めてくれる人が少なくなっていく。そういう中で運営しないとけない。ハードの話に戻ります。例えば公が物を

建てたら国道とか県道とか市道とかありますけれども、物をつくったら放ったらかしにできません。道もつくったら補修もしないといけないですよ。それを考えたら行政が何か物をつくると考えたら、将来、ずっと見続けられないといけない。なので、ハードというのはすごく考えながらつくっていかないといけない。ハードでお金がかかるから、ハードでできないことはソフトがあるだろうというのでいろいろ知恵と工夫で今松山市ではやっているところですよ。ハードも大事だしソフトも大事だということいろいろとやっています。

【女性】 学生に選ばれる魅力あるまちということで、イベントが私も好きなんですけど、イベントが多いまちはとても魅力的だと思います。例えば、去年に開かれた道後オンセナートはとても魅力的で私もボランティアに参加したんですけど、デザインとかアートとか結構若者や学生とかが飛びつく素材だと思うんですけど、こういった道後オンセナートみたいなイベントは確か市も共催されていたと思うんですけども、そういったイベントをこれから開かれる予定など、また、開かれるのでしたらどう市は貢献されるのか、教えていただければと思います。

【市長】 わかりました。イベントはいろいろとやっていきたいと思っています。道後オンセナートをやったのは知っていても、どんなことをやったのかわからない方もいらっしゃるんですよ。これもできるだけわかりやすく話します。万葉集や日本書紀に登場する日本最古の温泉なんです。日本最古の道後温泉を最先端の芸術で彩っていこうということで、道後オンセナートを去年1年間かけてやらせていただきました。なぜ去年やったかという、去年は3つの節目が重なった年なんです。我々の目の前にある瀬戸内海が瀬戸内海国立公園80周年。皆さん胸張ってくださいよ、瀬戸内海は実は日本で初めての国立公園なんです。霧島国立公園、雲仙国立公園、瀬戸内海国立公園が日本で最初の国立公園。今は確か20を超えて国立公園がある。1番新しく国立公園になったのは、沖縄の西のほうの海がきれいなところですけど、我々の目の前の瀬戸内海は日本で初めての国立公園なんです。そして、道後温泉本館は去年120周年。四国八十八カ所のお遍路さんが開かれて1200年という3つが重なる年だったので、道後も盛り上げていかないといけない。120といたら100年と150年の間で中途半端と思うかもしれませんが、人間60歳になると還暦といいますね。人間120歳になると大還暦というんですよ。道後温泉本館は大還暦を迎えましたということにして、盛り上げていこうというのでやりました。香川のご出身の方もいらっしゃると思

ますが、瀬戸内芸術祭は直島を芸術でまちおこしと結構あるケースなんです。日本最古の道後温泉を最先端の芸術で彩っていこうという道後オンセナートをやりました。今まで松山市は継続的なイベントはするんですけど、1年かけてというのはなかったんだそうです。市が中心になってやるんじゃなくて実行委員会形式をつくってやろう。それでお世話になったのが法学部の甲斐朋香先生で、実行委員長になっていただいてやりました。結局どうなったかという、道後温泉のホテルや旅館の宿泊者数は過去10年で去年が1番伸びました。そして、楽天トラベルだったと思うんですけど、心潤う女性の一人旅に人気の温泉地ランキングで、全国に色んな温泉地ありますけども、去年、道後温泉は全国の1番になりました。松山市としてはお金も要りますけど勝負をかけてやってお客さんも増えた。グッドデザイン賞もいただきましたので、こうやってやることによって道後温泉が芸術という魅力を加えるとお客さん増えるんだというのがわかったので、道後オンセナートではないけども道後温泉アートフェスティバルということで今年もやっていく。じゃあ道後オンセナートはやらないのという話になったら2年か3年に1回やっていきます。なぜかという去年ほどのお金は毎年はかけられない。それと、新鮮味がなくなるんですね。でも、芸術で魅力アップできるのはわかった。お客さんも増えるのはわかったので全部やめちゃうのはもったいないですよ。ですので、今年は道後温泉アートフェスティバル、2年か3年に1回道後オンセナートをやっていきます。トリエンナーレとかビエンナーレという言葉があるんですけど、イタリア語だったと思います。ビエンは2年に1回の芸術祭のことをビエンナーレ、トリエンナーレは3年に1回の芸術祭。こういう2年か3年に1回は道後オンセナートをやっていこうと思っています。さっき言ったように何か物を建てて人を集めるのも1つの方策。ソフト面でイベントをうって人に来てもらうのもやり方。やっぱりお金のことを考えながらやっていくというところが大事なかなと思います。

【男性】 よろしくお願ひします。僕は市外から松山市に通っています。

【市長】 通っているんですね。どちらからですか。

【男性】 東温市です。

【市長】 電車ですか。

【男性】 昔は電車だったんですけど、今はバイクで通っています。高校も市内で、東京などに比べたら整備率は低いですが松山市は公共交通機関がすごく整備されていると思います。市内や郊外に対する公共交通機関は整備されていると思うんですけど、空港から市内に入るのはバスとかタク

シーしかないので電車がいないんですね。それでここにあるように路面電車の空港までの延伸化と書かれているんですけど、僕も空港を利用するときどうしても渋滞につかまったりして非常に困ることがあるので、路面電車の空港までの延伸化に非常に興味があるのですが、市長はどういうふうに考えていますか。

【市長】 これができるると魅力的だとは思いますが、今いろいろ言われているんですけど、空港まで路面電車の延伸化計画はあるんですよ。JR松山駅が新しくなるのですが、今治駅は高架になっているんですね。2階にJRの列車が来ますけども、JR松山駅も高架になって、その下を路面電車が通って西環状線まで、つまり松山総合公園の下まで電車が延伸する計画を立てています。将来的には空港まで電車が行けたらという大きな夢があるんですね。例えば空港まで延伸して松山空港に坊っちゃん列車が待っていたらこれはすごく魅力的だと思います。ただ、何でもかんでもお金を突っ込んでやるものではない。現状はどうかということ、空港は今リムジンバスが来ていて結構速いんですよ。これは愛媛県さんと松山市と伊予鉄道さんでよく話をしていかないといけない。こういう路面電車は国も大事な存在だとわかっているんで、国もお金を出してくれるケースがあるんですけど、しっかりお金を精査していかないといけないと思っています。路面電車が延伸することによって、どれくらいの時間で松山市に入って来れますか、どういうメリットがありますか。昔の空港通りはもっと渋滞していたんですけど、新空港通りができることによってだいぶ渋滞が少なくなりました。結構リムジンバスは速く来れます。ですので、今のリムジンバスと比べてどうしていくかも考えていかないといけない。どれくらいお金がかかるのか、どのルートを通していくのか。確かに観光で松山空港に降りたら坊っちゃん列車がポッポーといいながら待っていましたというところがすごく魅力的だと思います。観光客の方も一定増えるでしょう。じゃあ、その増えた経済効果と投資するお金、どこがどれだけお金を出すのかという問題もありますので、慎重に考えていかないといけないなと思っています。投資の問題と費用の問題とあるんですけども、後手を踏んだらいけないと思うし、皆さんの世代に負担を押し付けてはいけないと思うんです。これが市長としての思いなんですけれども、やっぱりハード整備ではそのときそのときに必要な手を打っておかないと、後手に回るとしんどくなるんですね。だから松山にとってどうするのがいいのかをそのときそのときに考えて後手を踏まないようにすること。それと、例えば政治家は人の話を聞かなくなったら私は終わりだと思っているのですが、だからこうやってタウンミーティングをずっと続けたいなと思っているんですけども、

夢を見ることも大事だと思います。市民の皆さんが夢を見ることも大事だと思うけれども、あまり物事を聞かずに物をつくってしまっていて全然うまく立ちいかない。何か大規模な施設をつくったけどもお客さんが来ないで負の遺産が残ってしまう。さっき申し上げたようにハードをつくったらメンテナンスもいるんですよ。将来、誰が負担するのといったら皆さんの世代です。だから後手を踏まないというのと、皆さんに負担を押し付けないというのをその時々市長は考えていかないといけないと思っています。私も自分の考えを言いましたけど、空港に坊っちゃん列車はどうだと思いますか。

【男性】 空港に坊っちゃん列車はやっぱりいいと思います。僕は市内にいるときも坊っちゃん列車が通っているのを見るのですが、空港を降りた外国人とかは特に坊っちゃん列車があったらいいと思います。費用対効果のこともあるので、そこは市民の意見を聞いて調整していくべきだと思います。

【市長】 もう一つできたらいいなと思っているのが、路面電車と郊外電車の直接乗り入れができればものすごく便利だと思うんですね。例えば、松山圏域はものすごく恵まれたところだと思うんですよ。高齢化といったら絶対に病院とのお付き合いも必要になる。大きい病院でいったら東温市さんの愛大付属病院は目の前に郊外電車の停留所があるんですね。北梅本のところには四国がんセンターがあって近くに駅があります。新しくなった県立中央病院には松山市駅がある。JR松山駅といったら松山市民病院がある、これも新しい。西に行くと松山済生会病院とか松山は見事にバランスよく病院が配置されているんですね。日赤さんは東雲小学校の土地と合わせて今建替えをしようとしています。日赤さんの前にも電停があるんです。これは伊予鉄道さんとしっかり話をしていけないといけませんけど、例えば市内の路面電車が郊外電車に乗り入れできたら、郊外の方がそのまま乗り換えなしで入ってきて、例えば日赤病院に行けるんです。東温市から、例えば電車に乗ったらそのまま乗り換えることなく松大まで来たらすごく便利になるでしょうね。高齢の方ももっと便利になるでしょうね。例えば郊外に行こうと思ったら、松山市内の方が松前に行ったらエミフルさんの前には電停があるわけですから、松山市内の方がそのままエミフルに行くこともできるだろう。伊予鉄道さんが民間でやられているので話をしていけないといけませんが、これができたら利便性は高まると思います。ただ、今の路面電車と郊外電車は高さが全然違いますよね。だからホームを変えないといけないんですよ。ホームを全部を変えらるとなるとものすごくお金がかかるでしょうね。だからこれは松山市と伊予鉄道さんで



勉強会をつくっていろいろと考えているところですけど、これもどれくらいお金がいるのか、どういう利便性が高まるのか、そういうことも考えていかないといけないと思っています。

【男性】 よろしくお願ひします。テーマに学生に選ばれる魅力あるまちとあるんですけど、学生を大学生に限定したときに、県外から松山大学や愛媛大学に来てもらうためには大学周辺の施設の繁栄が重要になってくると思ひます。大学周辺の施設の繁栄で僕が思うのは、僕は公務員講座を受講していまして勉強をしているんですけど、松山大学の図書館は日曜が閉館で、隣の愛媛大学の図書館も時間が短くなっているのだから、勉強できる施設をもっと増やしてほしいという意見があるんですけど、野志市長さんは大学周辺の施設の繁栄についてはどう考えているのかなと思ひまして質問させていただきました。

【市長】 松山大学さんは日曜は閉館で、愛媛大学さんは時間が短い。

【男性】 長く使えたらいいなと思ひます。

【市長】 なかなか難しいかもしれないけれど、学生さんのほうからリクエストを出したら何とかなったりするんですかね。まず、これは皆さんがどういう思いを持っているかですね。学生の皆さんが「もっと時間延長してくださいよ、開館日を増やしてくださいよ」と、みんながまとまって要求を出せたら叶えられるかもしれない。それは愛媛大学さんもしかり。例えば4-Ringsさんの例を出しましたが、松大さん、愛大さん、東雲さん、聖カタさん、個々の存在じゃなくてつながるということをされているので、学生で組織化して話をするのも一つの方法だと思ひます。これもハード整備になるのですが、これは私の思いで担当の職員とは相談をしていないので、市長勘弁してくださいよと言われるかもしれないませんが、本は文化だと思ひています。できるだけ書籍文化を大事にしたいと思ひています。今、松山市の図書館は松山市総合コミュニティセンターにあります。各公民館にも図書館があります。できるだけ本を読んでほしいので公民館にある図書館は借りたら借りた分だけ余分に予算が増えていく仕組みにしています。だから公民館の本がずっと借りられていないとその図書館はずっと本が更新されない。よく借りてくれているところはどんどん予算が入るようにしているんですかね。できるだけ本を読んでいただきたいんですけども、松山市の総合コミュニティセンターの図書館もだいぶ古くなっているのだから考えないといけないです。例えば、松山駅がこれから新しくなる。松山市駅も伊予鉄道さんの持ち物なので話をしないといけないのですが、松山市駅前には放置自転車が多いいんですかね。松山の中ですごく目立

つ存在なのに放置自転車が多い。だいぶ古くなってきている。今、花園町の東側商店街のアーケードがのきました。昔に比べたら自動車の量が半分くらいに減ってきているので、松山市がお金を入れさせていただいて、歩く人に配慮して自転車の人に配慮するという空間改変に入るのですが、市駅もだいぶ古くなってきているので将来的にそこを考えていきたいと思っています。例えば市駅とかJR松山駅に図書館があったならば待ち合わせもできます。本を読むことで時間調整できますね。早く駅に着いてしまった、時間をどうしようと考えたときに、例えばショッピングセンターがあったら買い物をして北条に帰る、松前に帰る、市坪に帰る。そういう時間に費やすこともできるでしょう。図書館があったらそこで時間を費やすこともできるでしょう。松山市駅やJR松山駅に例えば図書館があったらいいな、保育園があったらいいな。お母さんが松山市内に働きに来て、保育園でお子さんを預けて仕事にいけるとか。あと一つだけいうと、大街道に「てくるん」という施設ができていますね。もともとは大きな時計屋さんだったんですけど、空き店舗になったんです。それで空き店舗にしておくのはもったいないなと思って、5つくらい目的があってつくりました。地元の人から「イベントスペースが欲しいです」と言われました。大街道・銀天街に行ったときに、障がいのある方が「自分たちがトイレに行きたくなくなったときになかなか行きにくいんです。障がい者用トイレが欲しいです」というお声をいただきました。大街道はオフィスが近いですから、その近所で働いているお父さん・お母さんの子どもをお預かりしようという保育園、それとお子さんを連れて買い物するとなかなか買い物に集中できないですよ。買い物に行ったときにお子さんを預かってもらったら気分転換もできる。ずっと子育てをしていたら大変だと思いますよ。その一時託児ができる。例えばベビーカーをお貸しするとか、AEDを置いておくとか、そういう5つくらいの目的があって「てくるん」という施設をつくったんですけど、今すごく人気の施設になっています。そういう色んなことを考えながら施設はつくっていききたいなと思っています。本は文化だと思っています。

【女性】 よろしくお願ひします。先ほどの路面電車の延線に少し関係があるんですけど、JRの高架化に関しては、私個人としてはあまり好感が持てないのですが。

【市長】 いいですよ。そういう意見も大歓迎です。

【女性】 延線に関してですけど、資料のイラストみたいに2本線を引いてしまうと、せっかくの松山の景観を壊してしまうのではないかなと思います。

ます。松山の魅力の一つに景観も入ってくると思うんですよ。今だったら高層ビルが松山市内はないので、東西南北どこからでも松山城が見える状態になっているんですけど、こういう新しい施設を次々につくっていくと、松山城が見えなくなってしまうたり、緑がなくなってしまうたりして、便利ではあるが住みにくいまちになってしまうのではないかと思いました。以上です。

【市長】 安心してください。松山市は景観もしっかりと配慮していこうと思っています。出身はどちらですか？

【女性】 市外です。東温市です。

【市長】 松山の方は外から帰ってきて松山城が見えたらほっとするという人が多いんですよ。松山にとって松山城が見える景色はすごく大事にしたいんです。これまでも榎町というんですが、ジュンク堂さんからの通りから見える松山城の景色を大事にしようという景観を大事にする地域に定めているんですね。これからも松山市は松山城が見える景観を大事にしていきたいと思っています。これは仕組みとして、松山では例えば高層マンションが建てられる場合に周辺住民の同意を得なければ建てられないことになっているんですよ。だから闇雲に建てられるわけではないのでご安心ください。そしてなぜ高架化するかというと、松山駅の周辺に行ったことがある方は想像がしやすいかと思うんですが、やっぱり踏切があると一定区間、車がとまっちゃうんですよ。駅の東西が分断されてしまっている現状があります。松山駅の西側は空襲を受けなかったのも、昔からの土地が残っていて狭いので消防車も入っていけないというところもありました。ですので、上が県、下が松山市と思ってください。県が高架事業をして松山市が周辺の土地区画整理事業をするという2つに分けてやっています。こうやって踏切がなくなることによって交通渋滞もなくなる。若い方の自転車のマナーがよく問われるんですけど、車が渋滞していると原付のバイクや自転車が縫うように走って事故が多いですね。渋滞と事故は結構つきものなので渋滞の緩和になる、事故を少なくしていく、消防車が入っていくとか、総合的に考えて高架化をしているところです。景観については十分配慮していきます。今からはそんなにハードはできない時代だと思います。少子高齢化と言いました。昔の高度経済成長の時代だったら税収もどんどん増えていく見通しがたっていたので、色んなハード整備ができたんですね。でも、これから人口減少社会に入っていく中で、下水道をどんどん郊外に延ばしていくとか、幅広い道路をどんどんと郊外につくっていくかといったら、そういう時代ではないでしょう。松山はコンパクトシティとあって、これからの時代にもものすごく適し

た都市なんですね。松山城を中心とした半径5キロにかなりの人口が集中しています。働く場所も集中している。大学とか銀行とか図書館とか病院がまちの真ん中に集まっているコンパクトシティです。それで高齢化したから体力が落ちた、視力が落ちた、いつまでも車を運転していたら危ないので運転免許の返納を考えないといけなくなるのですけども、車がないと生活できないまちはいくらでもあるんですけど松山はどうか。全国には市の数がおよそ800、まちの数はおよそ800、村の数はおよそ200です。全国には1700から1800の市町村がある中で、路面電車があるまちはわずか17しかないんです。100分の1の割合です。路面電車があるのが宝で、学生さんが多いのも宝です。郡中線・高浜線・横河原線がある。JRも走ってバスも走っているのが松山の強みです。強みを生かしたまちづくりをしていくのが皆さんの世代に渡していく大事なことかなと思っています。

**【女性】** こんにちは。私は少し提案をさせていただきたいと思います。私が考える魅力あるまちというのは、市民の方々がまちに誇りを持っていて、松山にはこんないいところがあるからどんどん来てみたいな感じで宣伝をしてくれる人たちがいるまちだと思っています。そこで、今日いただいた資料を見ていたら市内に住む新入生の皆さんに松山の観光地の無料チケットを配っているということだったので、そこに付け足しで資料を配布してほしいなということを考えました。松山ではまちかどおもてなし集団という方々が毎週末に道後温泉や松山城のところに行きまわるといってお話を以前に伺ったので、おもてなし集団に学生が加わってほしいなと考えました。そこで参加してみませんかといったチラシをチケットと一緒に配付するなど、ボランティアグループと大学生をつなぐことはできないでしょうか。

**【市長】** わかりました。私から観光地へ無料で行けるというのをご紹介しましょう。例えば県外や市外から松山の大学に来られる。4年間で実は松山城に行っていない、坂雲ミュージアムに行っていない、松山城二之丸史跡庭園に行っていない、考古館に行っていない、子規記念博物館に行っていない人がいるんじゃないですかねみたいな話を松山市役所の中でして、せっかく来てもらったんだから松山に愛着や誇りを持ってもらいましょうと、大学・短期大学・専門学校の新入生や留学生の1年生を対象に1年間無料ご招待をやってくださいよというので始めたんです。市外や県外の人に松山に来てくださいよというのも1つだし、松山の良さを教えてくださいよというのも1つだし、松山市民の皆さんが松山のことを好きになっ

てもらわないと意味がないわけですから、愛着や誇りを持ってほしいというのでこういうのをやっているところです。また、後輩の方が来られたらこういうのを知ってもらえたら行ってもらえるのじゃないかなと思います。それで、おもてなし集団に学生の皆さんが入ってもらうにはというご意見をいただきましたが、片山市民部長お願いします。

【市民部長】 市民部長の片山と申します。例えばまちづくり協議会は清水地区で準備会を立ち上げているんですよ。そういうところの中にも地域の宝とか紹介していただくような形で学生さん等も参加していただいたりしております。今、お話のあった事業も後でもう少し詳しく教えていただいて、参加できる方法とか先方もいろいろあるかと思しますので、後で教えていただければなと思います。

【男性】 私はよく路面電車を利用するのですが、新型の低床式の路面電車は非常に狭くて、朝夕の混雑する時間帯は非常に不便に思っています。また雨の日はそのせいで3～4分ぐらい電車が遅れてしまうことが時々あるのですが、連結式のLRTの導入はいつごろになるのでしょうか。

【市長】 詳しいですね。ありがとうございます。これも伊予鉄道さんのお話になるんですけども、路面電車は2種類あります。低い床の今の形の低床電車ですが、乗りやすいんですけども定員は少ないんですよ。昔からの電車のほうが定員は多く乗れるんですよ。広島市の広島電鉄さんがそうであるように、広島に行かれたときに連結した電車が走っているのを見られたことがあるかもしれません。もう1回言いますけれども、こういう路面電車が走っているのは宝なんですよ。広島も走っている、高知も走っているのだからそんなに珍しくないと思うかもしれませんがけれども、実は東京の銀座がある中央区では路面電車を復活させようという調査費の予算が計上されたぐらい路面電車は宝なんです。定員が少ないから低床の連結電車の検討がなされる形になりますよね。今、低床の連結電車がなぜ走っていないんですかということになると、実は伊予鉄道さんにお話を伺うと市駅前の花園町通りからずっと真っすぐに来て高島屋さんのところで直角に曲がりますね。低床の連結電車だとそこが行けないんですよ。なので、線路の形を変更をしないとイケない。形を変えると低床の連結電車でも行けるようになるそうです。ですので、今は例えば低床連結電車の導入はできる。おそらく伊予鉄道さんが主体ですから伊予鉄道さんもちろんお金を出す形になると思うんですけども、これはさっき申し上げたように国も路面電車は大事だと思っているので、国のお金とか松山市のお金も入れて、ひょっとしたら愛媛県さんもお金を出してくれるかもしれま

せん。ちょっと仕組みがわからないですけれども、お金を入れて低床連結電車が走るようになるかもしれません。JR松山駅から道後温泉駅までは市駅前には行かないから低床連結電車が走れるそうですけれども、一番人が降りるのは市駅前なので、できたら市駅前まで行きたいと思うのは伊予鉄道さんの普通の思いだと思います。松山市としてもそうだと思いますけれども、そういうところがネックとしてあるということですね。これも伊予鉄道さんの物なので、しっかりと松山市としては話をしながら進めていかないといけないなと思っています。

【男性】 今日はお忙しい中ありがとうございます。市長は若者に目を向けておられるということで、高齢化が進む松山市において若者と高齢者が相互に作用し合ってWin-Winの関係になれるような、そんな取り組みをお考えでしたら教えてください。

【市長】 今、たちまちこの事例がそうなんですよというのはちょっと出てこないんですけれども、また職員の皆さんでこういう取り組みがありますとか思い出したら言ってください。私からわかりやすくしゃべりますので、「それだったら市長、こういうアイデアがあるじゃないですか」というのが今日浮かんだら言ってほしいし、もし出なかったら松山市のホームページで市長へのわがまちメールに入っていけますから、そこで提案をしてもらったと思うのですが、これからのまちづくりは特につながるのが大事です。人がつながったら防犯も助かるし子育ても助かるし介護も助かります。例えばうちの家におじいちゃんとおばあちゃんがいるんですけれども、一人で一生懸命に介護しています。辛いでしょね。でも、周りの人にちょっと助けてくれる人がいたら助かりますね。人と人がつながることが大事。子育てもつながることが大事。皆さんもいずれ子育てしていくのじゃないかなと思いますが、子育ても本当に大変ですよ。それも一人で抱えてやっていたら大変だけど、子育ても「ちょっと奥さん買い物行っておいでや、私がおの間に見ておいてあげるけん」と言ってくれたらだいぶ気が楽になるでしょうね。別に女性だけが子育てをしないといけないという話ではないんですよ。もちろん男性がしても構わない。男性ももっと参加してあげてくださいね。そして防犯。15年ぐらい前は松山の中心商店街の大街道は夏の土曜夜市のときに暴走族が来ていたんです。暴走族が来るのを楽しみに期待する期待族も来ていた。一番ひどいときはパトカーがひっくり返される事件もありました。それぐらい荒れていたんですけれども、番町地区の皆さんが防犯をみんなで頑張ろうやということで、見回り活動をやり出しました。私も毎年参加をさせてもらっていますけれども、

土曜夜市が大体終わりかけた時間帯に地区の方々がパトロールに行って声掛けをするんですよ。「もう遅くなりましたよ。土曜夜市も終わりましたから、もう帰りましょうね。」という声掛けを地元の人を中心になってするんです。それと今も落書きはありますけれども、中心商店街はいっぱい落書きがあったんです。それを地元の人たちがボランティアで落書き消しをする。ここでも嬉しいのはペンキは色合わせをしておかないと全然塀の色が変わってしまうんですが、塗装業協会の人たちがちゃんと色合わせをしてくれて、刷毛も用意してくれての落書き消しができているんです。人がつながったら防犯も子育ても介護も助かるんですね。人がつながっていくことが大事。だから若者とおじいちゃんやおばあちゃんがつながったりするといいでしょうね。何か取り組みが出てきましたでしょうか。

【保健福祉政策課長】 皆さんこんにちは。保健福祉部の西市と申します。本日はどうもありがとうございます。今、子育てをする若者もいらっしゃれば、高齢化が進んでいますので高齢者の方もいらっしゃいます。その中で市内41地区に公民館という地域の方が触れ合う場所がございますね。古いデータなのですが、22年度の実績として高齢者と子どもが交流を持つ事業の中には、ある地区では高齢者や児童クラブの呼びかけによって、高齢者が好きな囲碁大会を地域の子どもさんと一緒になってやっていく。もしくは将棋大会をする。ある地区では餅つき大会をする。昔は神社に大きなしめ縄がありましたよね。ああいったものも三世代が一緒につくっていくという事業を各41地区の中でやっているという実例がありますので、また皆さんも興味があったらそういった活動に参加していただければと思います。

【市長】 ちょっと思い出したことがあります。例えば大学生の皆さんの協力でやっている土曜塾というのがあります。これは松山市内には色んなご家庭があります。みんなが塾に行けるわけではないんですよ。本当はもっと学びたいから塾に行きたいんだけど、塾に行くお金がなかなか難しいんだというご家庭もあるんですよ。例えば中学を卒業して就職をしてしまうと賃金がなかなか伸びないというところがあります。負の連鎖という言葉があるんですけども、ご家庭の教育環境が恵まれないとなかなか進学が難しく、そして職業選択の幅が狭くなってしまいうという例があるんですよ。松山には先生になりたいなと思っている学生さんがいらっしゃるんですよ。それと60歳で退職しても元気な人がいっぱいいるじゃないですか。例えば先生のOBの方に力を貸してもらって、自分は先生になりたいんだという大学生の人に協力をしてもらって土曜塾という仕組みをつくってしまして、学びたいと思っている中学生の子たちに集まっ

てもらって、塾ではないんだけども勉強ができる仕組みをつくっています。また、大学生の方に消防団員になってもらう仕組みもありまして、大学生の皆さんが防災知識を得てもらえると長い間活動してもらえるんですよ。この大学生防災サポーターのほかに俳句甲子園も大学生の方々に協力してもらっています。4-Rings もさっき言った松山の4つの大学がボランティアグループをつくってくれていますけれども、とにかく皆さんが力を貸してくれると色んなことができますので、社会勉強にもなるだろうし、よろしかったらいろいろと手を貸してもらったらと思います。

【タウンミーティング課長】 タウンミーティング課長の橘川です。よろしくお願ひいたします。先ほどのご質問で若者と高齢者が Win-Win の関係になるような施策があればというご質問ですが、地区が限定にはなってしまうんですけれども、桑原にはまちづくり協議会が立ち上がってしまっていて、桑原は東雲大学が近くにあってまちづくり協議会の中にも学生が入っていたりするので、若者の機動力を生かして地元の方や高齢者の方を含めて福祉マップをつくったという事例がございます。

【市長】 福祉マップとは何ですかという説明をしてもらえますか。

【タウンミーティング課長】 地域の中で福祉施設とか病院とかを1枚の地図にまとめて、高齢の方や障がいのある方に見やすい地域で暮らしやすい地図をつくったという事例でございます。

【男性】 本日はよろしくお願ひします。人口減少対策として一番に挙げられるのは、県外の人にもっと松山を知ってもらって、とりあえず松山に来てもらうというのがあると思うんですけれども、私が考える中で一番松山に来てもらえる機会があるのが大型のイベントだと思うんですよ。大型のイベントといえばスポーツとか文化のイベントがあると思うんですけれども、それで挙げられるのが先日あった愛媛マラソンとか夏には俳句甲子園とかだと思うんですけれども、実際に自分もこの前の愛媛マラソンに出場して市長も出ていらしたと思うんですけれども、無事完走をすることができました。それで思ったのが沿道の応援がとてもすごく温かい、いい大会だなと思ったんですけれども、そういうイベントで県外の人を呼ぶために市がしていることとか、これからしていきたいなと思っていることがあれば教えてください。

【市長】 はい、わかりました。松山に観光で泊まりで来られる方もいらっしゃるし、日帰りで来られる方もおいでる。観光の入込客数というのですが、松山市は600万人を目指してやっています。愛媛マラソンはおかげさまで愛媛マラソンとか東京マラソンとか大阪マラソンとか福岡



マラソンとかびわ湖毎日マラソンとか全国のフルマラソンの中で、先ほど言われた沿道の応援のおかげで、ものすごく松山はおもてなし力が高いと言われるですよ。応援がすごいと言われるんです。人気ナンバー1になっているんですが、愛媛マラソンが確か県外の方は約3千人ぐらいだったと思います。松山市は観光の入込客数600万人を目指してやっているんですけども、これを毎週やっていくわけにはなかなかいけないですよ。色んな策を講じながらやっているところですが、確か道後温泉の入込客数が100万人だったですかね、松山城もそれぐらいだったと思うんですが、やっぱり多さでいうと松山城や道後温泉が1番多いです。ですから松山城や道後温泉の魅力をこれからも上げていくことがすごく大事なことになると思うんですよ。スポーツイベントでいいますとプロ野球のオールスターゲームもお客さんが来られますよね。坊っちゃんスタジアムは約3万人の収容人数ですけども、プロ野球のオールスターゲームは年間で2または3試合だったと思います。2002年と2012年に松山の坊っちゃんスタジアムでオールスターゲームをやっています。広島のマツダスタジアムでやれるのは、広島東洋カープさんという球団を持っているのである意味できることなんですけれども、松山はプロ野球球団を持っていない地方球場で2回もしたというのは初めてなんです。今、3回目の誘致に向けてすでに動きだしています。俳句甲子園もそうですね。それと2年前の11月にファン＝ロンパイ欧州理事会議長、わかりやすく言いますとヨーロッパの大統領が松山に来たんです。なぜかという、これはヨーロッパで松山の知名度をグッと上げるために、私がお願いをしまして来ていただいたんです。EUは何カ国あるかという29カ国、EU29カ国のトップであるヨーロッパの大統領は当時ファン＝ロンパイ大統領。この方に松山に来ていただいたら、「何で東京や大阪じゃなくて松山に行くの？」と知名度が高まりますね。ファン＝ロンパイ大統領に来ていただいたんですが、実はこの方は英語俳句の第一人者で俳句が大好きなんです。実は松山はベルギーとちょっとつながりがありまして、松山は英語俳句コンテストをやっているんです。「日EU英語俳句コンテスト」は、松山は俳句の都ですから松山が中心になってEUさんと外務省と一緒にやってきたんですけども、EUの本部のあるベルギーのブリュッセルに私が俳句ポストを持っていったときにファン＝ロンパイ大統領とお会いをさせていただいて、「松山に来てくださいよ」とお願いをしました。このファン＝ロンパイ大統領が私と会った最初の質問は、「正岡子規は知っている。正岡子規は何で俳句の革新者だと言われるんだ」というのが最初の質問ですよ。EUの大統領ですよ。何とか勉強をしていってましたから答えら

れましたけれど、それぐらい俳句が好きなんです。もちろん英語で詠まれていますけれども、訳をすると「俳都たる 力を薫る 詩片かな」というのがファン＝ロンパイ大統領が松山で詠んでくれた俳句なんですけれども、ヨーロッパでの知名度を上げようということでもやりました。イギリス・フランス・ドイツの各国に俳句協会があります。俳句でお客さんを引っ張ってくることも1つの方法なのかなと思っていますので、色んな方策を考えながらお客さんに来ていただこうと考えているところです。

### 【女性】

学生に選ばれる魅力あるまちということで、学生として普段から悩みというか困ったなと思うことがあります。夜、街に飲み会とか食べに行ったときに遅くまで友達と食べて話してとなったときに、最終電車が高浜線は10時40分で終わっちゃうんですよ。10時40分は結構遅いですけど、私たちからすると早いほうで、後の帰りの手段がお酒を飲んでいるので自転車では帰れないとなりますと、タクシーとかになるんですけど、タクシーだと学生にとって結構高いんですよ。なので、タクシーじゃなくて「もう飲酒運転しちゃえ」みたいな話も聞くんですよ。そうすると危険ですし、もちろん飲酒運転は悪いことだと思うんで、ここで一つ提案ですが、タクシーは利用するんですけど学生ということで半額にしてもらう制度で、その半額分は市が出すんですけど、ただ、市もお金が先ほどから問題だとおっしゃっていたので、タクシー業界の方も学生に利用されるということで半額なんですけど、もしかしたら利益が出るかもしれない。今までタクシーを利用していなかったけど、より学生が利用することで半額なんですけど、半額以上の利益がもしかしたらあるかもしれません。半額全部を市が負担するというにはならないかもしれませんが、利用すると学生もタクシー業者の方も助かりますし、飲酒運転などの若者の事故もなくなる、違反する人も減るんじゃないかなと思いました。悪い点もあると思うんですが意見をお伺いできればと思います。

【市長】 はい。目からうろこでした。こういうのおもしろいじゃないですか。これひょっとしたらできるかもしれませんよ。タクシーの方々はタクシーの協会を持っているから、いわゆる仕組みでできないのかもしれないですけども、ああいうのは認可事業なんですよね。それはできないですよという仕組みになっているのかもしれませんが、おもしろいと思うんですよ。学生が多い松山だからあんまりタクシーは乗らない。じゃあタクシー会社の方々が「じゃあ学割やりましょうか」というのを今まで全国でもあんまり聞いたことはないですけども、学割というやり方として

あるのかなと思います。例えば何割引にするのかは損益分岐点のこともあるでしょうから、そこに市が補助金を入れるのかはわかりません。今はバス路線の維持をするために補助金を入れたり、さまざま補助金は入れているんですけども、タクシーも公共交通の一つなんですよ。ですので、これをうまく生かしていくという面で学割というのができるのとタクシーを利用する新しい層が広がるでしょうね。今は学生さんが大街道とかに行っただけで飲んだりするのは何曜日が多いですか？

【女性】 金曜日とか土曜日です。

【市長】 毎日やらないでも金曜日と土曜日だけ運行するとかね。ジャンボタクシーや大きいバスを使って、終電が終わった後に例えば松山市駅から高浜方面に向けての「シンデレラエクスプレス」とでもしましょうか、12時までには帰るようにそういうバスが出るとか、横河原方面に向かっても出るとか、松前方面に向かっても出るとか。これは民間の方とも話をして、こういうのは皆さんが意見を集めて、意見を集めて個々で言うよりはこういうニーズがあるんですよと大きな動きになると民間事業者さんも動きやすいかもしれませんね。今ご意見を伺ってそういうやり方もあるかなと思いました。

【男性】 僕、実家が興居島なんですけど、農業にしる漁業にしる担い手が完全にいなくなって過疎化してきているんですけど、若年齢層に農業や漁業に従事させるいい手段はないでしょうか。

【市長】 これですね。記憶をたどりながら言いますが、市内の小学生たちが郊外を体験できる事業をやっているんですよ。旧の菊間町寄りに立岩というところがあるんですけど「立岩ダッシュ村」とか、久谷の三坂峠の下のほうになりますけども「坂本ぼんぼこ村」とかですね。子どもたちがその地区に出て行って農作業を体験する。農作業はこういうふうにするんだよ、春から秋ぐらいまでやるんですけど、収穫する、収穫したものを加工してそれを売るといって事業をやっています。今、興居島とおっしゃったんですが、実は興居島は東京の青果の卸しの方からすごく注目をされているところでありまして、今、12月の「紅まどんな」は東京に行ったらサイズによっては1個2,000円ぐらいで売れるんですよ。1月の「せとか」はサイズによって1個1,000円ぐらいで売れるんです。これからも70パーセントぐらいは「伊予柑」や「温州みかん」が中心ですけども、これからは有望品種である「紅まどんな」とか「せとか」「カラマンダリン」で農家の所得向上につなげていこうとしているんです。興居島はそういう有望品種の生産にすごく適しているんです。どこでも有望品種ができ

るわけじゃなくて「せとか」なんか特にそうですけど、田んぼみたいなどころではできないんですよ。水がいっぱいあるところでは水っぽい果物になってしまうので、水分をできるだけきって糖分を上げないといけない。そういうところで島しょ部はまさに適しているんです。だからうまくやっていると農家の所得向上につながっていただけるから、松山市としてはすごく農業は大事だと思っているので、これからも色んな取り組みをしていこうと思っています。ちょっと3分だけ見てもらいましょうか。ちょっと事前に説明すると、農家の所得を向上させるために私が日本で1番大きい値段を決める東京の大田市場に行ってセールスをしているんですけども、これも農家の所得向上の取り組みなので、ちょっと見てもらったらと思います。

※『松山市動画チャンネル 平成26年度まつやま農林水産物ブランド「紅まどんな」トップセールス』を視聴

【市長】 はい、見ていただきました。これも農家の所得の向上につなげるための取り組みです。大田市場になぜ行くのかというと、東京の果物や青物を扱う日本一の市場なんですね。東京の大田区にあるから大田市場といいます。いつ行くのかというと、「紅まどんな」「せとか」「カラマンダリン」のシーズンの最初に行くんですよ。ああいうふうには苦労と工夫を知ってもらったら、競り人さんたちにいい値段をつけてもらえる。シーズン最初にいい値段をつけてもらおうと、そのいい値段でワンシーズン引っ張れるんですよ。逆に苦労と工夫が理解されなくて悪い値段が付いたら悪い値段で引っ張られてしまう。なので、シーズンの最初に必ず行くことにしています。今、おかげさまで「紅まどんな」「せとか」「カラマンダリン」すごくいい値段が付きます。これからどんどん量は増えていくと思いますけども、昔のキウイフルーツのように一気に広がって、値段が一気に下がったことがあるんですけども、そうならないように鳥よけのネットをつくる時に補助を出すとか、ハウスをつくる時に補助を出すとか市としていろいろやっていきたい。とにかく農家の方は大変だと思います。重いもの持って汗かきもって、映像の生産者の方はまさに興居島なんですけども、そういう頑張っている方が報われるようにさまざましていきたいと思います。農業は大事ですから。

【男性】 学生に選ばれる魅力あるまちとしてやっぱり学生に何か得があるようなまちづくりがいいと思うんですけど、愛媛県は全国で1番賃貸料が安いのでそれを利用して例えば大学と市が協力して空き家を学生が寮

として使えたらいいなと思うんですけど、またそのことを県外にPRしたらいいなと思うんですけど、どうでしょう。

【市長】 学生寮か。これってどうなっているんですかね。当然、愛大さんは愛大さん、松大さんは松大さん、東雲さんは東雲さん、聖カタさんは聖カタさんの中でやっているんだと思うんですけど、どういう仕組みで学生寮をつくっているのかわからないので、ちょっと持ち帰らせてください。まさに松山は家賃が安いですから、これは強みだと思います。強みを生かしていくことが大事だと思いますので、調べさせてもらったらと思います。

【司会】 それでは最後に市長からまとめをお願いします。

【市長】 今日は本当にありがとうございました。まず、参加に感謝を申し上げたいと思います。自分も学生時代のことを考えていて、後期試験も終わって春休みはアルバイトする方もいらっしゃるでしょう。勉強する方もいらっしゃるでしょう。いろいろ学生さんも忙しいです。そういう中、こうやってわざわざ学校に来てもらってタウンミーティングに参加していただいて本当にありがたかったと思います。ありがとうございました。そして例えば松山市がどうなっているんですかと質問をぶつけてもらったり、またご意見をいただいたり、これもありがたかったなと思っています。今、市役所の中で広報と広聴に力を入れましようと言っています。我々の取り組みを知っていただくこと、皆さんの声に耳を傾けること。その一つの表れとして今日はタウンミーティングをさせていただいたんですけども、持ち帰らせていただくこともありますので、これはまた必ず皆さんにお答えをお返しさせていただいたらと思います。最後に、松山大学さんで選挙コンシェルジュの仕組みを導入させていただきました。これは選挙管理委員会でやっていることですが、誰に投票してくださいという話じゃなくて、選挙は行ってくださいよ。皆さんの思いの一つ一つが行政であり政治でありますから、皆さんの声が反映されないようではいけないと思いますね。大事な1票ですから。選挙権は最初は税金を多く納めている男性だけに認められました。次にお金持ちというのが外されて男性だけに認められて、最後に女性も投票に行く権利を認められた。獲得してきた歴史があるので、ぜひとも選挙に行く権利は行使をしていただきたいと思います。皆さんの意思が反映されない世の中でいいんだろうか。将来は皆さんが本当に中心になっていくんですよ。世の中に対して、知らんわいいのかなと思いますので、ぜひとも選挙には行っていただきたいということです。できるだけ今松山市は皆さんの声を聞こうとやっています。今日の1時間半の中で「私たちの力が必要とされているのかな。私たちが動

くことによって松山市が良くなるんじゃないかな」と感じていただけたんじゃないかなと思います。52万人市民の中で2万人も学生さんがいるというのは松山の宝ですから、「たからみがき」のまちづくりと言っているんですけども、この宝を磨いていきたい。公共交通もしかりですけども磨いていきたいと思っているので、ぜひとも力を貸していただけたらと思います。よく私は市民の皆さんにわかりやすくということで語呂合わせを使うんですけども、「いかす」まちづくりをしたいと思っています。「い」は何なのかというと松山に「行きたいな」、「か」は松山のものを「買いたいな」。さっき「紅まどんな」をご説明しましたが「紅まどんな」とか「せとか」とか松山の「坊っちゃん団子」「タルト」など松山のものを「買いたいな」。松山に「行きたいな」行ってもらってお金をおとしてもらって松山が潤うように、松山のものを「買いたいな」お金おとしてもらって松山が潤うように、そして「住みたいな」、「いかす」の「す」は「住」です。これだけ住みよい松山ですから、ぜひとも皆さんに住んでいただいて、人口減少に歯止めをかける。あと一つだけ言わせてください。全国47都道府県の中で、1番出生率が低いのはどこでしょう。実は東京なんです。あんなに若い男の人多いのに、あんなに若い女の人多いのに、出会いの場もいっぱいあるのに東京が1番出生率が低い。赤ちゃんが生まれる率が1番低い。子育ての環境が整わないからか出生率が1番低い。そんな東京にみんな憧れるのはいいと思います。確かに便利だと思う。でも、そういう東京にどんどん人が集まっていくと出生率が低い。子どもが産まれない。人口減少に歯止めがかからない。そういう中で、地方が光っていくことがすごく大事だと思っています。光る松山になっていきたいと思っていますので、皆さんの力は大きいです。また、力を貸していただけたらと思います。今日は貴重な時間をありがとうございました。タウンミーティングはこれにて終了させていただきます。本当にありがとうございました。

— 了 —